Vol.4 2017

日本福祉大学「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)

持続可能な「ふくし社会」を担う「ふくし・マイスター」の養成

COC ニュースレター

ふくし・マイスター

COC中間成果報告フォーラム

COC中間成果報告フォーラムを東海キャンパスにて、9月8日(金)に開催しました。本学は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の採択を受けて、平成26年度より取組をすすめてきました。今年度はその4年目にあたることから、本学が目ざす「持続可能な『ふくし社会』を担う『ふくし・マイスター』の養成」をテーマとし、これまでの成果を報告するとともに、今後の取組課題について認識を共有する機会としました。当日は、地域住民の方、自治体関係者、社会福祉協議会、NPO法人、企業、学校関係者や学生らの100名を超える方が参加しました。

第Ⅰ部

第Ⅰ部では「『ふつうのくらしのしあわせ』をつくる、『わたし発のふくし』へ」と題し、原田正樹学長補佐(社会福祉学部教授)が基調説明を行いました。大学は地域というフィールドの中で、「教育」「研究」「社会貢献」を相互に関わらせながら、バランスよく展開できるように進めていくこと。そして、ひとりでも多くの学生が、「ふくし・マイスター」を取得し、他人事ではなく「我が事」として、地域に貢献できる人材になることを期待したいと結びました。

実践報告

実践報告では「日本福祉大学における地域連携教育の実践」として、全学7学部(社会福祉学部、子ども発達学部、健康科学部、経済学部、国際福祉開発学部、看護学部、スポーツ科学部)の教員7名と学生15名が登壇しました。各学部における地域と連携した教育の取組についての報告を中心に、学生にとっての学びや成果、さらには今後の地域活動の展望について報告しました。

シンポジウム

第Ⅱ部のシンポジウムでは、「日本福祉大学COC事業のこれまでとこれから」をテーマに、教育、地域、住民という視点で意見交換を行いました。フロアとのディスカッションでは、地域住民の方から、活動地域への要望や学生の地域活動に対する更なる期待の声をいただきました。さらに行政関係者からは、本学の地域での取組について評価をいただきました。今後も大学と地域との連携をさらに深め、教育の質の向上と大学の地域貢献に取り組んでいくことを確認しました。

ふくし・マイスター

「ふくし・マイスター」とは、地域の課題を理解するとともに、生涯を通して地域と関わりながら暮らす市民としての基礎力、地域課題を見据える「ふくし」の視点を身に付け、ボランティア精神とリーダーシップを発揮して「身をもって」地域課題の解決に取り組むことができる人のことです。

ふくしとは?

“ふつうのくらしのしあわせ”を意味します。

従来の制度中心の「社会福祉」の枠を広げて、多領域が関連・連携しあう広い意味の福祉を平仮名で「ふくし」と表現しています。

地域での学びをふくしAWARDで発表

本学では、地域志向学習や、国際交流、ICTの活用を通して得られた学びを表現するプレゼンテーションコンテスト「ふくしAWARD」を開催しています。2018年1月23日に行われた第3回ふくしAWARDでは、37件の応募の中から、鍋を囲んだ地域のネットワーク構築と、防災、減災の実践活動を行った子ども発達学部4年生の有賀みのりさんのグループが日本語部門で大賞を受賞しました。

COCデイ「ふつうの・くらしの・しあわせ」をみつめるイチニチ

Education

本学では、全学生が地域を志向した学習を行い、学部の専門性を活かして、地域に貢献できる人材の育成を目ざしています。その地域を志向した学習ができるひとつの科目として、「知多半島のふくし」を開講しています。この科目では、「ふくし」の視点で知多半島を見つめ、各学部の専門性を活かしつつ、地域特性や課題を理解し、地域への働きかけや多分野・多職種の連携によって課題の解決策を見出すことを学習の目的としています。その授業の一部を「COCデイ」として一般公開しており、地域で課題解決に取り組む方を講師に迎えて話を聞くことで、学生が日々学ぶキャンパスの所在地域の現状や課題に対する理解を深めました。また、美浜町・半田市・東海市に位置する各キャンパスの特色を生かしたテーマでシンポジウムも開催しました。

美浜キャンパス

発達障害児支援の取組と課題

第1部：ミニレクチャー

「学校・施設における発達障害児への対応」

スポーツ科学部の江口昇勇教授より「学校・施設における発達障害児への対応」として、スクールカウンセラーや施設のスーパーバイザーとして関わってきた経験から発達障害児への対応について基礎的な学習を行いました。

第2部：シンポジウム

「知多地域における発達障害児支援の取組と課題」

・NPO法人PakaPaka 理事長…… 土肥 克也 氏
・NPO法人ゆめじろう
　相談支援専門員 管理者……坂本 ちひろ 氏
・社会福祉学部……牧　真吉 教授
・子ども発達学部 ……伊藤 修毅 准教授

子ども発達学部 渡辺顕一郎教授のコーディネートのもと、現状の課題と今後の展望についてそれぞれの立場から話題提供をいただきました。学生、地域住民の方、学校関係者を含め120名を超える方が参加しました。

半田キャンパス

半田市の歴史・学びに活かす

第1部：話題提供

たのしい妄想で育っていくふるさと～半田を作るカケラ探し

2017年度市民研究員　赤坂雪江氏に、半田の成り立ちをお話しいただいた後、まちあるきを通してまちの魅力を再発見するフィールドワークの方法について学びました。さまざまな事例を通して、半田に住む先人の郷土への愛情によって、今の土地や建造物ができているということを伝えていただきました。

この話題提供を受け、健康科学部の渡辺崇史教授のコーディネートにより、「Mentimeter（メンチメーター）」という、リアルタイムに投票やコメントができるアプリケーションを用いて、対話形式の授業が繰り広げられました。

第2部：ワークショップ

「専門知識を活かして、文化をつなぐには」

健康科学部で学ぶ情報や建築、介護など各専攻の専門知識を活かして、これからどのように半田の歴史をつなげていけるのかというワークショップを行いました。

東海キャンパス

まちにある空き家をどう活かすのか

第1部：事例報告

経済学部の鈴木健司准教授のコーディネートのもと、知多半島内外の様々な活動を紹介し、質疑応答を行いました。

・東海市建築住宅課……石濱 彰洋 氏
・南知多町ゲストハウス「ほどほど」…小杉 昌幸 氏
・日本福祉大学健康科学部3年……白井 翼　氏
・中部大学
　工学部4年……川原 由雨 氏
　生命健康科学部3年 ……太田 真司 氏
　経営情報学部2年……辻合 康志 氏

第2部：ワークショップ

～私たちが考える空き家、空き地の利活用～

グループワークの議題については、①活用の目的は？②主な対象者は？③どのように使うのか？そしてその使い方は目的に合致するのか？④利活用のユニークな点は？などを具体的に想定して論議した後、発表を行いました。最後にシンポジウム登壇者からそれぞれコメントをいただきました。この講義では全体を通して、学生と地域住民の方100名が参加しました。

地（知）のマイスター・地（知）のフィールドの活躍

Education

地域において優れた教育的・研究的な知見・知識・経験を有した人や団体を「地（知）のマイスター」と「地（知）のフィールド」として登録（認定）し、本学の地域連携教育や地域を志向する研究において活躍していただいています。本学の正課授業等へのゲスト講師としての登壇や、地域連携教育・地域志向の研究でのフィールド先として協力いただくことで、知多半島における人材育成に支援をいただいています。

まちづくり・地域活性を学ぶ

2017年11月21日、経済学部1年生の「基礎演習Ⅰ」の授業に、地（知）のマイスターに登録しているNPO法人亀崎まちおこしの会 運営委員長の石川正喜さんがゲスト講師として登壇しました。亀崎の歴史や文化等についてお話いただき、学生たちはまちづくりの活動や地域の活性化に向けた課題を考え、理解を深めることができました。

市民研究員・地域課題解決型研究の活動報告

Research

2015年度に「市民研究員制度」と「地域課題解決型研究支援制度」を創設して以降、毎年、地域に密着した研究を継続しています。この研究は、よりよいまちづくり(「ふくし社会」の構築)に寄与することを目的に、COC事業の連携自治体である美浜町・半田市・東海市・知多市の地域課題に係る研究テーマを設定し、課題解決に貢献できる可能性をもつ調査や活動を行うものです。2017年度に採択された市民研究員および本学教員が1年間の研究活動の成果を報告する場として2018年3月3日に「2017年度市民研究員・地域課題解決型研究 研究成果合同報告会」を開催しました。

市民研究員の研究活動実績

2015年度	2016年度	2017年度
4件	4件	6件

市民研究員の日比野徳男さんは、「地域回想法を用いた多世代交流で、地域の人々が生き生きと暮らせるまちを創り出すための調査・研究」をテーマに研究に取り組みました。研究活動の一環として「思い出のふるさとーなつかしい風景・昔のくらし・遊びー」講座を、2018年1月19日に知多市南粕谷ハウスにて開催しました。参加者は昔のそろばんやハンドベルに触れながら、昔の体験談を次々と語り合い、会場は元気な声に包まれて、地域回想法普及の契機となりました。

市民研究員 研究テーマ

- 訪問型の支え合い活動と身近な地域拠点のあり方について
- 東海市の重症心身障がい児の自立支援について、あるべきまちの将来像を、当事者や支援者とともに考える。
- 子どもの多様性を大切にできる地域づくり
- 「古今半田衆」巻第一 半田停車場前
- 中心市街地における世代間交流について
- 関係団体が協働して地域回想法を用いた多世代交流で地域の文化を伝承することにより、地域の人々が生き生きと暮らせるまちを創り出すための調査・研究

地域課題解決型研究の研究活動実績

2015年度	2016年度	2017年度
3件	8件	12件

看護学部の新美綾子准教授は、東海市と知多市の潜在看護師を対象に災害支援共助システムの構築に向けて計7回の研修会を企画し、2017年10月14日には東海市しあわせ村キャンプ場で災害時医療看護研修会「防災キャンプを体験しよう!」を開催しました。災害時にライフラインが止まったことを想定し、ポリ袋を使用した調整方法や災害時の口腔ケア方法など「衣食住」に関する防災キャンプを体験することで、防災や減災について意識を高める契機となりました。

地域課題解決型研究 研究テーマ

- 食を媒介とした対話や交流の場づくりから始めるコミュニティづくりの実践的研究
  ～知多市朝倉団地周辺地区を対象に～
- 知多市・東海市における地域在住災害支援ナースの養成・強化とナース間のネットワーク
- 「学生主体活動型地域サロン」開設に関するニーズ調査と基盤づくり
- 地域包括ケアを支える権利擁護支援システムの研究 ～知多地域成年後見センターの事例研究～
- 半田市地域高齢者に対するグループ回想法の介護予防および社会参加への有効性
- 美浜町における子どもを対象とした地域福祉拠点づくりに関する研究 ～子どもの夜の居場所支援の実践を通して～
- 「ファミリーホーム(小規模住居型自動養育事業)の地域支援に関する研究その2」
  ～グループ支援と個別支援の統合化を目指した包括的支援の実践研究～
- 美浜町における災害発生時の災害支援拠点、避難所生活に向けた支援
  ～アウトドアのノウハウを生かした体験型「防災・減災キャンププログラム」の構築～
- 地域包括ケアシステム構築に向けた生活支援コーディネーターの養成
- 知多半島における「0歳から100歳の地域包括ケア」構築にむけた萌芽的研究
- 新田開発地の歴史的資源の活かし方 ～川南新田の歴史発見～
- 半田市赤レンガ建物と周辺地域を含めた地域活性化まちづくりに関する研究

自治体との協働

Collaboration

半田市、藤田保健衛生大学、日本福祉大学、インフォコム株式会社は、2017年4月に4者による共同開発ワーキンググループを設置し、災害時における高齢者や障害者など要配慮者への災害支援を迅速に行うため、行政、医療、福祉機関が、ITを活用して指定避難所や福祉避難所の被災状況及び避難者状況を迅速に収集・伝達する「災害医療・福祉情報システム」の開発に取り組んできました。11月の半田市の総合防災訓練において試験運用を行い、修正を加えて開発が完了しました。2018年3月末には本格運用に向けた成果報告会を開催します。

美浜町	半田市	東海市	知多市
少子高齢化に伴う 子育て支援や地域福祉の充実 防災・減災のしくみづくり	中心市街地の地域活性化 地域包括ケアシステムの構築	中心市街地の活性化 多様な地域づくりの 課題に応える地域デザインの構築	地域デザインと人材育成 地域資源を活かした 地域価値の向上

美浜町　地域交流拠点Chabsをオープン

美浜町は、誰もが地域の中で居場所を見つけ、様々な人や活動とつながり、それぞれが役割を担いながら、いきいきと活躍できる街づくりを目ざして、2017年3月に「美浜町生涯活躍のまち基本構想・基本計画」を策定しました。この計画を着実に推進するため、7月に名古屋鉄道「知多奥田駅」高架下に地域交流拠点Chabsをオープンしました。オープン以来、美浜町と連携して日本福祉大学が運営を担ってきました。2018年3月末までに約500名の来訪者、約50件のレンタルスペースの利用が見込まれています。2018年4月からは、美浜町まちづくり支援団体（一般社団法人美浜まちラボ）が運営を引き継ぎ、まちづくりに関する相談対応、横断的なネットワークサポート、人材育成などの事業を展開していきます。

半田市　地域に根ざして広がっていく学びの実践の場

学生たちが大学での学びを地域で実践する機会が増えてきています。

バリアフリーデザイン専修の学生たちは、6月に亀崎の寺院をフィールドに「エコロジカル建築設計演習」の授業を行い、暮らしやすい住環境の提案を行ったことをきっかけに、地域住民との関わりを深めていきました。

11月には亀崎地区の子どもたちを対象に、遊びの中から建築に関して学ぶことのできる「亀崎こども建築塾」を開催し、木材やゴムを使い秘密基地づくりを行いました。

亀崎の空き家を利用してシェアハウス生活を始める学生も現れ、地域に根ざした学びの実践の機会がさらに増えていきそうです。

東海市　第3回東海市地域大円卓会議を開催

東海市地域大円卓会議は、多世代が協働して、学び、考え、実行する「学思行」を体現する市民参加の場です。2017年11月21日に東海市芸術劇場で、第3回東海市地域大円卓会議が開催され、本学学生や教職員を始め、星城大学、行政関係者、一般参加者など約60名が参加しました。第1部ではプレゼンターの一人として、国際福祉開発学部の新堀亮さんが登壇し、自身の夢を語るスピーチをしました。第2部ではプレゼンターの夢を実現するためのアイデアを出し合うワークショップを実施しました。続いて、出された意見をグループ毎に発表し、「多世代が協働した学びの場」を創出する機会となりました。

知多市　朝倉団地及び周辺地区プロジェクト会議の開催

本会議は、食を媒体とした対話や交流の場づくりを通して、多世代及び多文化の人々をつなぎ、相互理解を促進し、交流を行うこと、また、新たな活動につなげるきっかけづくりを通して、いきいきわくわくとしたコミュニティの創出を目的とした会議です。国際福祉開発学部の吉村輝彦教授が呼びかけ、地域の方とともに、企画・運営を行ってきました。

2017年度はこれまでに5回開催し、自治会及び団地居住者（外国籍の方を含む）、UR都市機構、地域活動団体、行政、学生を含めた本学関係者他が参加して議論を積み重ねる中で、地域における多文化共生やふくし的な課題が共有されました。

吉村教授は、このほか朝倉駅周辺整備計画市民ワークショップのアドバイザーとしても関与しました。

日本福祉大学 COC事業推進本部
愛知県知多郡美浜町奥田会下前35番6　教育開発課
TEL　0569-87-2214　FAX　0569-87-2273　http://www.n-fukushi.ac.jp/coc

文部科学省 地(知)の拠点